

教育目標		本校教育実践の蓄積を生かしつつ、新しい時代に生徒が未来社会を切り拓ひらくための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。また、知識理解の質を更に高め、確かな学力を育成するとともに、豊かな心や健やかな体を育成する。						総合評価	
運営方針		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい時代を逞しく生きる力を意識し、身につけるために探究的活動に力を注ぐ。 ・進路目標の実現のため、高大接続改革や新しい学力観が要求する資質・能力と、確かな学力を育成する。 ・社会の形成者として有為な人材となることを目指し、部活動を奨励するとともに、社会と繋がる活動を推進する。 							
○昨年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標				
<p>コロナ禍で在宅学習を余儀なくされた中、ICTを活用するなど工夫された授業が展開された。新学習指導要領実施に向けて探究的な学びにつながる授業改善を図る必要がある。例年とは違う方法で学校行事等を実施することができた。今後、生徒が登校できなくなるなど学習環境が変化しても、本校の教育活動が継続できるよう様々な想定をして備えたい。</p>		探究活動に積極的に取り組ませる。		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度からの総合的な探究の時間の準備を行う。 ・令和4年度からの理数探究の準備を行う。 ・すべての教科において探究活動への意識を高める。 					
		新しい授業に向けた改善を進める。		<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を定着させる。 ・ICT機器などを積極的に活用し、生徒の授業理解が進む工夫を行う。 ・新学習指導要領が求める学力観を意識した授業改善を行う。 ・より高い可能性にむけて妥協せず追求する意識を育てる。 ・3年生になるまでに進路実現に向けての意識づけを行う。 ・1人1人の努力に寄り添う指導を充実させる。 					
		進路指導の充実を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分を大切にし、他者を思いやることの大切さを日常の中で気づかせる。 ・地域とのつながりを意識し、奉仕者精神を学ばせる。 					
		豊かな人間性と人格の涵養に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を通じて、協働し工夫する態度と郡高への所属意識を高める。 ・部活動への積極的参加を推奨する。 ・より健康な心身を育むよう取り組む。 					
		学校行事や部活動から学ぶ。							
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)			年度末(3月)		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	観点別評価の定着への推進と授業内容の充実を図る。	観点別評価の定着を図るため、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究し、考査に反映させる。	昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと答えた職員が7割を超えればA、7割～5割ならB、5割～2割ならC、2割未満ならDとする。						
進路指導	将来の進路に関する意識向上	キャリア教育に関する講演会や大学説明会等を通して、常に自己の進路について考える機会を与え、意識の高揚を図る。	各進路関係行事において、事後アンケートを実施し、生徒の満足度が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。						
	進路実現のためのきめ細かな指導	各種模擬試験の結果等を参考に、その分析を実施し、課題等の把握と、教科指導も含めた進路に関わる指導の方向性を確認する。 また進路に関わる情報の収集に努め、的確に状況を把握する。	大学入学共通テスト7科目受験率による。70%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%以上未満ならDとする。						
生徒指導	自分から進んで挨拶のできる生徒を育てる。	学校生活のあらゆる場面で、先生や来校者に対して、積極的な挨拶の励行を促す。	2学期末の生徒実態調査の中での挨拶に関する項目を集計し、本校生が先生や来校者に積極的に挨拶をしていると思う生徒が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。						
特別活動	学校行事・部活動を通じた、豊かな人間性と人格の涵養。	学校行事、HR活動、部活動に積極的に取り組み、協働し、工夫する態度を高められる行事を企画・立案する。	生徒実態調査により、学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践し、達成感を得る事ができたと回答した生徒が80%以上A、60%以上B、45%以上C、45%未満ならDとする。						
人権教育	自他の権利を守り、お互いをかけがえのない存在として尊重していく態度や豊かな人間性の育成を目指した人権教育の充実。	自他の人権の擁護と尊重の意識を高め、人権感覚の涵養に努められるような人権学習の実施及び、人権問題に対して日常的に意識させる環境の形成。	各学年最終のアンケートにおいて、積極的に、または関心を持って人権ホームルームに取り組んだとする回答が80%以上の学年が、全学年ならA、2つの学年ならB、1つの学年のみではC、どの学年も達しなかった場合はD。						

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		子文化関係者等 の意見・分析)及び改善方 策
				自己 評価	進捗状況	自己 評価	成果と課題(評価結果の分析)	
教育相談	相談に関する知識やスキルの共有	教職員対象の研修(ストレスマネジメント・ケース会議・事例検討等)を企画する。	研修後にアンケートを行い、その結果、「有効であった」と答えた教員の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、30%以上ならC、30%未満ならDとする。					
保健体育	生涯を通じて健康な生活が実践できる力の育成	「保健だより」を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だより」を読んで、『怪我・疾病予防などに取り組めた』が、60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。					
	体力の向上を目指した活動の充実	体育に関する行事を実施し、それに向けて日々の体力の向上および活動の充実を目指す	生徒実態調査において「日々の生活を通じて自己の体力向上に努めている」が75%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%未満ならDとする。					
文化図書	探究活動への意識向上、豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ピブリオバトル、図書だより「共慶」、ポスター等の掲示などを通して、読書活動への意欲を高める。	ピブリオバトル後のアンケート及び生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つかった」「興味を持った本が見つかった」と答えた生徒の割合が75%以上ならA、65%以上ならB、55%以上ならC、55%未満ならDとする。					
環境整備	生徒の自主的な活動による学校美化の向上	美化委員により、機会あるごとに「すすんで清掃・整理整頓」を生徒全員に呼びかけ推進する。また、各ホームルームや共同利用する場所の清掃状況を定期的に点検し、問題がある場所の清掃を強化し改善する。	生徒実態調査において、「清掃当番のとき、清掃活動にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、50%以上ならA、30%以上ならB、20%以上ならC、20%未満はDとする。					
広報・情報	ホームページ、育友会関連連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステム、G-Suiteを活用し、保護者への行事の周知徹底を図り、育友会行事の参加者の増加と満足度を高める。	利用者、参加者に満足度アンケートを行い、「よかった」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)					
探究	令和4年度からの総合的な探究の時間の準備を行う。	令和4年度の1年生の、1・2年次の探究学習の指導案を作成する。 令和4年度の2年生の、2年次の指導案を作成する。	左記の指導案の作成を100%達成した場合をAとする。85%ならB、70%ならC、60%ならDとする。					
事務・管理	理化館建て替え工事(新理化館建設・現理化館取り壊し)を円滑に進める。	教育活動への影響をできるだけ少なくし、工事が円滑に進捗するよう、関係機関と調整を行う。	工事が工期通りに、問題なく円滑に支障なく進んでいればA、調整可能ではあるが何か支障があればB、調整・改善は可能であるが教育活動に大きな支障があればC、工期が遅れるような大きな問題があればDとする。					